

取り付け手軽、風にも強い

特許技術、パラソルに

金属加工の立神鐵工所(豊見城市、上江洲正直社長)が、取り付けが手軽で風にも強いビーチパラソル「Ryupara」(リユーパラ)を開発した。太陽光パネルを載せる架台用に生み出した特許技術をビーチパラソルに応用し、容易に抜けない高い設置強度と耐風性を実現した。東南アジアで開かれた国際ラリー大会のスポンサーとしてPRに成功するなど、世界中の観光地へ売り込みを目指す。



独自の特許技術と意匠で、高い設置強度と耐風性を実現したビーチパラソル「Ryupara」で世界を目指す立神鐵工所の上江洲正直社長(手前)。13日、豊見城市金良

立神鐵工所(豊見城) 海外の砂浜視野

リユーパラは砂浜に立てるポールの先端がドリル状になっており、柄の部分に取り付けた折り畳み式のハンドルを回すことで砂浜にしっかりと挿すことができる。さらにレバーを前後に動かすことで、ドリル付近から「返し」と呼ばれる金属の抵抗部材が突起する。この「返し」が砂中に食い込むことで横風や引き抜きでも簡単に倒れることがない。

もともと「返し」の構造は、砂地でも太陽光パネルを設置できるようにと架台の基礎杭として開発し、特許を取得した技術。通常は50〜100kgの力で引き抜けるポールが、800kg以上の耐久力まで強度が高まる。

通常ビーチパラソルを立てるにはスコップで砂を掘る力作業が要るほか、柄の



部分挿して支えるためのパイプを砂中に埋め込んだり、風に倒れないよう土のうやワイヤで支えたりするなど、ビーチの管理や景観

アジアクロスカントリーラリーの最終地点、アンコールワットの表参式会場に立てられたRyupara (立神鐵工所提供)

面で課題があった。上江洲社長がビーチパラソルへの応用を提案し、社員と共に2年がかりで開発した。「沖縄は風が強いので念入りの対策が必要。どうせならパラソルにもこだわろうと思った」と、風抜け口を設けた二段構造で耐風性をより高め、傘の骨組みをプラスチックファイバー製にして強化した。

現在は業者向けで1本3万2千円の販売価格だが、市販用の低価格製品を来年夏に販売する計画で開発を進めている。

上江洲社長は「小さな町工場でも世界に行けることを示したい」と海外出荷を視野に、8月にタイ、カンボジアで展開されたモータースポーツのアジアクロスカントリーラリーのスポンサーとなった。スタート地点のパタヤ(タイ)、ゴール地点のアンコールワット(カンボジア)にリユーパラが立った。ハワイやタイのホテル向けで問い合わせがあり、代理店販売の交渉も始まっている。

「ビーチの悩みは世界中同じなので、どんどん攻めていきたい。東京五輪のビーチバレーなどの海浜競技でリユーパラを咲かせたい」と意欲を燃やした。